

# ニジェール支所便り

## 1月号

【編集長】松本支所長 【編集担当】保久企画調査員

Tel: (227) 2073 5569 Fax: (227) 2073 2985 E-mail: ni\_oso\_rep@jica.go.jp

### 新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひします。(ニジェール支所スタッフ一同)



前列左より、運転手 Mamadou さん、秘書 Salamatou さん、NS(農村開発)Abdou さん、掃除夫 Sidigali さん、企画調査員(農村開発)保久さん

後列左より、NS(教育)Abdoulaye さん、運転手 Ibrahim さん、NS(経理)Hassane さん、松本所長、企画調査員(教育)中川さん、NS(総務)Rahila さん、

### 「ニジェールの師走とクリスマス。」

「SMASSE」、左から読んでも右から読んでも、あれ、「SMASSE」になりませんでした。この正式名称はおわかりですか？ 回答は最後まで読んだ方には解ります。日本語だと中等理数科教育強化と言う邦訳がピンときます。勿論、JICA マンの方は全てピンとくる方がほとんどでしょう。

さて、この今月に入り、ハルマッターンの前兆かなあとも思える風、風、風が少しずつ吹き始め、気温が下がると共にこっちの「風邪」にも罹る人も増え、目、鼻、のど、そしてお肌にも悪いニジェールの 12 月は、厳しい乾季が一段と深まり始めた季節でもありました。(現在継続中)

そして、この時期を狙ったのか、7 日から「SMASSE 第 2 フェーズプロジェクト」のフォローアップ協力が開始され、約 3 週間に渡り慌ただしいニジェールの師走が始まりました。この協力のため、日本からサヘルのじろうさんと、光長専門家(同プロジェクトで約 3 年半活躍され方)が来られ、教員研修のサポートを中心に関係者一同が、ニアメ市内の中学校を掛け廻りました。ニアメ市内には 62 の中学校(昨年度は 53 校)があり、その全中学校の数学、物理・化学、生物地学の 3 教科に関わる教員(約 1.250 名)を対象に授業の質の向上を目的として授業研究を 2 日間実施する計画を作り、授業の課題と改善を再認識してもらう教員研修を今回のフォローアップ協力で実施する事が大きな目標です。

この協力の実施機関となる中等教育省新任・継続研修局(DFIC/ Direction de la Formation Initial et Continue)は、本研修の実施にあたり、大きく 3 段階に分けての実施(①各学校の校長と教科主任約 248 名を集め、3 教科の授業研究を必要とする理由とその実施方法、②各学校担当の教育主任及び視学官 50 名に授業研究に係る方法と教授論の解き方など③3 教科の新任教員(約 860 人)への質の向上を考えた授業の取り組み方など)を行い、教員指導の強化と改善を推進することを掲げている。この研修プロセスの中では、JICA が実施した SMASSE プロジェクト(2007 年～2013 年)で製作した教育教材や視聴覚教材なども活用・導入された。そして、生徒にとって、また先生にとって、解り易くて「質」を高める授業とは何か～？をテーマに各教科担当教員が集まり、実践的な研修が短期間で行われた。私自身、初めて、藁葺作りの教室の中で約 1 時間の授業を聴講しました。縦 6m 横 4m の藁葺教室は、ニジェール中等教育省基準に合わせたものであり、涼しいとは言え、室内には机と椅子がギュウギュウ詰に並べられ、かつ 60 人近くの生徒に囲まれ、外からの雑音も多く、後ろに入ると先生の声が聞こえないほど、まさに家畜小屋を思わせる藁葺教室でした。この日の授業研究は、SVT(地球生物学)で大きなイナゴ(バッタ?)を教材に使って、飛ぶ仕組みや、後ろ足が何故長いなど、普段、何気なしに食べている物が学校教材で使われていました。(素晴らしい模型よりも、実物大の生の教材が有効かもしれません)。しかしながら、この教室はうるさい、教室の中じゃなく外からの雑音、雑音、椅子も小さい、壁にも寄りかかれぬ。青臭くていいなんて言ってもらえません。床は地面。これは大変、このままでは大変と思いきや、ニジェールの劣悪な教育環境下で将来ノーベル賞を受賞できる生徒が出没するかな、もしいたのなら宝もんだなあ～などと考えながらも、その前に集中力と体が持たない。まさに、ニジェールの生徒と先生は、忍耐比べの様な雰囲気の中で授業を行っている実態も味わいました。決して美味しいものではありませんよ！藁葺教室は、砂・風、そして雨なんか降ったらひとつ溜まりもありません。これで 1 年近く持つのが不思議なくらいです。そんな藁葺校舎と現代風の二階建て校舎とが入り混じり、さらに教室の増築工事をしている学校、そこに群れ溢れる生徒、生徒の数、このような風景は、何とも言えない不思議なハーモニーであり、ニジェールならではのものです。

この師走の 3 週間、駆け足でニアメ市内の中学校を回り、ニジェールでこんな師走が来るとは思わなかった

のも正直なところ、私はまるで 12 月のサンタさんに化した模様でした。幸い、いろいろな勉強も豊富にできましたが、何よりも、7 年間続けた同プロジェクトの成果で設立された DFIC のデビュー戦がこの 12 月でした。今後は、この JICA からのフォーアップ協力を皮切りに、この延長戦である全国(ニジェール 7 州)を対象にした、授業の質を高める研修計画がこの 30 日から始まる予定でもある。さらに驚くことに、最貧国のニジェールが、そして中等教育省が、この全国版研修の為に予算措置を全面的に確保し、確実なものにしました。何と〇●億セーファー！！「まさに生徒にとって、先生にとって、天からの？アッラーからの？2014 年版の大きいなクリスマス・プレゼント」である。

文頭の質問の答えは、

SMASSE; Strengthening of Mathematics and Science in Secondary Education の略でした。

と、ここまで書いたら、何と、世間ではもう年の瀬となっていました。

すっかり SMASSE に漬かった 12 月でしたが、みなさん良いお年をお迎え下さい。2015 年、皆様のご多幸を願っています！！(中川企画調査員)

## 松本所長が VRACS の FFS 終了式に参加

VRACS(サヘル地域における貯水池の有効活用と自律的コミュニティ開発プロジェクト)が実施している FFS(Farmer Field School)研修の終了式が、2014 年 11 月 23 日(日)にサイトの 1 つである Yantala Corniche 村で行われ、松本所長が出席されました。Yantala Corniche 村の野菜栽培組合員 12 名に対して終了証書が授与されました。研修員の一人である野菜栽培組合事務局長の M. Lampo Salifou にインタビューしたところ、「FFS 研修のおかげで野菜栽培技術が向上し、農産物の質が高まった。研修終了後も引き続き FFS を継続していくつもりだ。」との回答を得ました。VRACS 調査団の専門家の皆様、お疲れ様でした。引き続きプロジェクトの成果を期待しています。(保久企画調査員)



FFS 研修で実施したレタス栽培



研修終了書の授与式



研修生全員

## プロジェクト・専門家等の活動の進捗状況紹介

### ■■■サヘル地域における貯水池の有効活用と自律的コミュニティ開発プロジェクト(VRACS)■■■

<http://www.jica.go.jp/project/niger/001/index.html>

VRACS プロジェクトでは、プロジェクト対象である各貯水池に設立した、貯水池利用者組合が作成したアクションプランの実施を支援しています。その中の一つに農業資機材販売所の機能強化活動があります。本活動は、対象サイト全組合員を対象とした啓発活動、販売所を運営する運営委員を対象とした運営研修、資機材の供与という手順で実施しています。

ニアメ州 Tchingal Bangou サイトでは、販売所の啓発活動、運営研修、資機材の供与という全ての機能強化活動が完了し、販売所の運営が開始されました。販売所は毎日開いており、日々の販売状況がノートに記され、その内容は毎月普及員に報告されています。

タウア州における農業資機材販売所の機能強化活動の対象である Bourdi II サイトでは、販売所の啓発活動、運営研修までの機能強化活動までが 10 月中に終わりました 11 月 7 日に、販売所運営委員に対する要望調査に基づいて購入された資機材の提供が、タウア州組合活動促進課長、Illèla 県組合活動促進課長、プロジェクトアシスタントスタッフ及び運営委員代表 2 名により実施された。販売所運営委員に対する要望調査に基づいて購入された資機材は下記表の通りである。

資機材品目	数量
化学肥料(15-15-15)	1 t
尿素	2 t
野菜種子(キャベツ 10g)	27 袋
野菜種子(レタス 10g)	20 袋

今までのニジェールの事例ですと、プロジェクトや農業省の関係者が、販売所運営委員や、顧客となる農民のニーズを把握せず、資機材一式を販売所に提供してしまい、提供された資材が全く販売されないこともあったようですが、啓発、必要な研修の実施、関係者が直接資機材を購入するという手順をえることで、時間は要するものの、必要な資機材が販売所まで確実にとどくようになりました。

マラディ州では、Magagi Rogo、Danja、Kanembakaché 及び Takassaba の 4 サイトが農業資機材販売所の機能強化支援の対象となっています。マラディ州では、農業資機材販売所の状況確認調査の実施後、活動計画の策定に時間を要しましたが、11 月 13 日から 16 日にかけてマラディ州組合活動推進課が各貯水池利用者組合を訪問し、農業資機材販売所機能強化活動実施のための啓発活動が行われた。その後、4 サイトの農業資機材販売所運営委員をマラディ州に集め、農業資機材販売所運営委員に対する農業資機材販売所運営研修が実施された。今後、タウア州と同様に、販売所運営委員に対する要望調査に基づいて資機材が購入・搬入される予定です。

上記のように、少し手間と時間は要していますが、必要なものが確実に届きました、販売所のシステムが持続的に機能するよう、関係者への支援を引き続き行っていきます。(長井専門家)

## ■■みんなの学校：住民参加を通じた教育開発プロジェクト(EPT III)■■■

今月 12 月のみんなの学校プロジェクトは、住民参加型教育開発モデルづくりへ向けたパイロット活動における関係者能力強化研修および本格的活動開始へ向けた下準備に取り組みました。

住民参加を通じた教育の質の改善活動モデル開発のための『学校運営委員会への補助金供与モデルと質の改善活動ミニマムパッケージ』の“融合”パイロット活動においては、先月のリソース管理・運営、活動計画策定研修を受けた合計 39 の学校運営委員会に対して、補助金供与(学校あたり平均 214,923 フランセーファー)ならびに、算数ドリルをもちいた補習活動のためのファシリテーター研修を実施しました。それぞれの学校運営委員会



写真上：『補助金受領住民集会』の様子。住民の前で補助金を受け取る学校運営委員会代表および会計係

では、補助金により算数ドリルや補習活動に必要な資材を購入するとともに、現場ファシリテーターへの校内研修が実施されました。今後、12 月下旬から 1 月上旬にかけて、現場での算数ドリル活動が開始される予定です。尚、当該活動の裨益児童は 4125 名、教員 112 名、コミュニティファシリテーター 80 名に上ります。

そして、住民参画型の学校運営を中学校へも普及するために取り組む『機能する中学校 COGES(学校委員会)モデル』パイロット活動においては、モジュール開発ならびに基礎調査、対象校の選定を実施した上で、中等 COGES 中央推進室、ならびに対象地区の中等 COGES 監督官に対する「機能する中学校 COGES 設立」のための能力強化研修に取り組みました。来月 1 月初めには、対象中学校に対する“機能する中学校 COGES”設立研修へと取り組みます。

来月 1 月には、上記活動に加え、地域教育開発へ向けた地域行政とコミュニティの連携による『州教育フォーラムモデル』パイロット活動も再び本格始動へと進めていきます。その他、2 月には、学校運営委員会活動にかかる『全国経験共有セミナー』の開催、3 月には『みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー』の開催と、2015 年度も“盛り沢山”のみんなの学校プロジェクトですが、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。(影山専門家)